

感染症内科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 感染症の診断・病態評価に必要な検査とその評価の基本的考え方を習得する。
2. 感染症の治療に必要な抗菌薬・抗微生物薬の選択や投与設計の基本を習得する。
3. 耐性菌に対する感染制御活動やワクチンなど予防の基本を習得する。

研修目的

感染症は、細菌やウイルス、寄生虫などの微生物によって惹起される疾患群である。微生物の種類のみならず、その患者の状態や、どの臓器に感染したかでも、さまざまな病態を呈する。したがって、感染症診療においては、原因菌をきちんと検索・同定することと、患者さんの状態を的確に把握することが特に重要となる。これには、内科学や臨床感染症学はもちろん、細菌学や薬理学などの基礎医学も含めた、幅広い知識と経験をベースに、丁寧に、一例一例に向き合うことが求められる。

当科の研修では、あらゆる感染症に対して的確な診断を下し、適正な抗菌薬治療を行う、もしくはその支援を行う基本的知識を身につけることが大きな目標となる。原因菌が比較的はっきりしている疾患群はもちろん、原因不明の発熱や下痢、発疹などを呈する患者の診断や治療にも積極的に取り組む。

また、感染症診療においては治療のみならず、耐性菌対策が重要となる。そのため、新たな耐性菌や感染伝播を防ぐための院内感染対策や抗菌薬適正使用、ワクチンによる予防の基本的考え方を習得する。

研修目標

◇ 一般目標 (GIOs)

適切に臨床診断を下し、問題を抽出して、それを解決していく能力を身につけるために、入院・外来診療およびコンサルテーションに携わる中で、感染症内科学の基本的知識と診療手技を習得し、チーム医療の一員としての医師の役割も学ぶ。

◇ 行動目標 (SBOs)

1. 病歴・身体所見をとり、カルテに記載できる。
2. 身体所見と検査データから問題点を抽出できる。
3. 診療と治療のための計画を立案できる。
4. 末梢静脈ルートの確保、動脈血採取などの基本的手技を習得する。
5. グラム染色や血液培養などの基本的診断手技と評価法を習得する。
6. 抗菌薬や抗微生物薬を適切に選択し、病状や薬物に応じた投与量を決定する基本的考え方を習得する。
7. 上級医の指導のもと、患者の病状と治療に関する説明を適切に行うことができる。
8. チーム医療も一員として、メディカル・スタッフと連携して診断や適切な抗菌薬処方を行うことができる。

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

- ・ 呼吸器感染症(肺炎、インフルエンザなど)
- ・ 抗酸菌症(結核、MAC症など)
- ・ 菌血症・敗血症(心内膜炎を含む)
- ・ 難治性・耐性菌感染症(MRSAや緑膿菌など)
- ・ 消化管・肝胆感染症(C.difficileやアメーバ赤痢など)
- ・ 性感染症(クラミジア、梅毒など)
- ・ エイズ
- ・ ウイルス感染症(成人麻疹や水痘など)
- ・ 真菌(アスペルギルスやカンジダ、クリプトコックス)などによる全身性の日和見感染症
- ・ 蜂窩織炎など皮膚軟部組織感染症
- ・ 化膿性脊椎炎など難治性骨・関節感染症
- ・ 不明熱など

また、これらの疾患に関するグラム染色や血液培養をはじめとする基本的検査法、その他、呼吸器内科と連携して行う気管支鏡検査などの手技も習得可能である。

研修方略

LS	方法	該当 SBOs	対象	場所	媒体	人的資源	時間	学習時期
1	病棟研修、 外来研修	1~3	研修医	病棟、外来	カルテ、臨床データ	上級医	随時	3ヵ月
2	病棟研修、 外来研修	4	研修医	病棟、外来	検査器具、点滴類	上級医	随時	3ヵ月
3	細菌検査室 研修	5	研修医	病棟、外来、 細菌検査室	微生物データ、 検査器具	上級医、 臨床検査 技師	随時	3ヵ月
4	薬剤部研修	6	研修医	病棟、外来、 薬剤部	薬物動態、TDM データ、点滴類	上級医、 薬剤師	随時	3ヵ月
5	病棟研修、 外来研修	7	研修医	病棟、外来	カルテ、臨床データ	上級医	随時	3ヵ月
6	予防・ワク チン研修	8	研修医	病棟、外来	臨床データ	上級医、	毎週(月)	3ヵ月

研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1～3、7	形成的	研修医	上級医	研修中	観察記録
4	形成的	研修医	上級医	研修終了時	実技試験
5	形成的	研修医	上級医、臨床検査技師	研修終了時	実技試験
6	形成的	研修医	上級医、薬剤師	研修中	観察記録
8	形成的	研修医	上級医	研修中	観察記録

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	病棟研修・外来研修 ワクチン対応など	検査など	病棟研修
火	病棟研修	病棟研修	病棟研修
水	病棟研修	病棟研修	病棟研修
木	病棟研修・外来研修	検査など	病棟研修
金	病棟研修・外来研修	病棟研修・TDM など	病棟研修

指導責任者および指導医

指導責任者： 関 雅文 (感染症内科 科長)